

# ICAN Monthly Report 3



日本からの絵手紙を受け取る紛争地の子どもたち

## 絵手紙を通して考える「平和」

<国際理解教育事業：担当スタッフからのレポート>

今年度も、日本とフィリピン子どもたちによる絵手紙交流「トゥライ・プロジェクト」を行いました。「トゥライ」はタガログ語で「橋」を意味し、絵手紙が日比の子どもたちの相互理解を促進する懸け橋になることを願い、2008年度より毎年実施しています。

8回目となる今回のテーマは、「私の『平和』のイメージ」です。戦後70年、日本とフィリピンの国交60周年の節目の年に、未来を担う子どもたちに改めて「平和とは何か」を考えてもらいたいと思い、このテーマを設定しました。2015年5月から参加を呼びかけ、今年度は日本とフィリピンから4,457枚が集まりました。

フィリピンからの絵手紙は、10月に日本の参加校に届け、校内での展示や授業での紹介がなされました。参加した中高生からは、「国籍や年齢や環境が違っても、平和を願う気持ちは同じだと分かり、フィリピン子どもたちと繋がれた感覚になって嬉しくなりました。これが感覚だけで終わらず、本当の平和が世界に広がればいいなと思いました。」「国境を越えて人と人が力を合わせたり、思いを伝え合えたら、地球上の沢山の涙を笑顔に変えられると思います。私はそんな笑顔の溢れる世界にしていきたいです。」などの感想がありました。

その後、日本からの絵手紙と感想をフィリピンに届け、1月から2月にかけて、各地での展示や配布をしました。ミンダナオ島の紛争地ピキット子どもたちからは、「日本に友達ができたと誇りに思います。他の子どもたちと良い関係を築くことで、平和を導くことができると信じています。」「私たち皆が、互いを愛し合い、分かち合い、助け合うことができれば、平和を実現できると思います。」などのメッセージが届きました。

参加した子どもたちは、自分なりに平和について考え、伝え合うことで、描かれているものに違いがあっても平和を願う気持ちは同じであることを学びました。これからも、平和とは何かを「教える」のではなく、考えや気付きを導き出す活動を行っていかれたらと思っています。

認定NPO法人アイキャン

〒460-0011 愛知県名古屋市中区大須3-5-4 矢場町パークビル9階 TEL/FAX: 052-253-7299 メール: info@ican.or.jp  
ホームページ <http://www.ican.or.jp> フェイスブック <https://www.facebook.com/ICAN.NGO>

【編集者から一言】 月々1,000円から始められるマンスリーパートナーで、私たちの活動を応援してください。詳細は上記HPへ。



アイキャン日本事務局  
中村由実子 (なかむらゆみこ)  
～プロフィール～  
愛知教育大学卒業後、医療・福祉機器の商社、ODA関連の財団法人に勤務。英国イーストアングリア大学国際開発学修士課程を経て、2012年12月より現職。

## Project Site



※●はアイキャン活動地  
※番号は裏面に対応

## ①路上の子どもたち(サンマテオ)

2月11日

### 「平和の学校」をより良いものへ



児童養護施設「子どもの家」で植栽活動を行い、路上の子ども15名が参加しました。スタッフから、各野菜や育てる際の注意点を説明した後、一緒に種や苗を植えました。参加した子どもたちは、「自分が路上で売っている野菜がどのようにしてできるのか学ぶことができた」(ジャン/13歳)、「路上では喧嘩もする仲間と協力して植えることができた」(アルノール/14歳)と話しました。

## ②紛争地の子どもたち(ピキット)

2月4～6日

### 1年を振り返る評価ワークショップ



1年間の活動を振り返る評価ワークショップを行い、3村の村役員、高校の教師及び生徒等計31名が参加しました。各村・学校で実施された平和活動について共有するセッションでは、「研修で学んだ、平和の概念を盛り込んだ授業案の作り方の技術は、どの科目にも応用でき、授業内容や教材だけでなく、生徒指導の仕方においても役立っている」(高校教師/46歳)などの声が上がりました。

## 今月のICANを増やす活動

### スタディツアー・研修事業

2月24～28日/マニラ

#### 交流を通して固めた決意

フィリピンでスタディツアーを開催し、12名が参加しました。「私ができることは、出会った人々の声を帰国後伝えられるよう書き留めること」と、常にノートいっばいにメモをとる方もいました。路上やパヤタスの人々との交流を終えた最終日、帰国後に自分にできることとして、Aさんは、「マンスリーパートナーになり、毎月引落しの度に子どもに想いを馳せる。その積み重ねをしたい」と語りました。



### フェアトレード事業

2月6～7日/大阪

#### 今年も活躍、大阪ボランティア

大阪のワンワールドフェスティバルに出店し、フィリピン料理2品を販売しました。今年も大阪在住のボランティアが中心となり、材料の購入やボランティア募集等を全て行ってくれました。2日間で9名のボランティアが集まり、無事完売できました。来店者の中には、「去年美味しかったから今年も食べられるのを楽しみにしていた」とバナナ春巻きを求めて来てくださる方もいました。



## 今月のTopics



### 企業での活動報告会

2月22日/東京

昨年度に続き今年度もご寄付をくださった日本郵船株式会社の東京本社において、路上の子どもの児童養護施設「子どもの家」の進捗をお伝えする報告会を開催させていただきました。講演中、真剣にメモを取る方や涙を流す方もおられ、「私たちの寄付が、このような活動に役立っていると思うと嬉しい」「子どもにぜひ頑張ってもらいたいし、応援していることを伝えてほしい」などの言葉を頂きました。

## 今月のMedia

2月3日 なごや発国際交流通信 NIC NEWS レイテ島被災地の現状と課題

2月5日 中日新聞(三河) 刈谷北高校の生徒がマニラの路上の子どもとスカイプで交流

2月5日 読売新聞(三河) 刈谷北高校の生徒がマニラの路上の子どもとスカイプで交流

## 今月のICANな人

◎前田さん、街頭募金のほうもいつもありがとうございます!

### マンスリーパートナー 前田理緒さん

「来られなくてもフィリピンの子どもの力に」

インタビュー:2月4日

高校生の時、何かボランティアをしたいと思い、インターネットで検索してアイキャンの街頭募金の情報を見つけました。これならできそうかなと思って参加したのが最初です。

その後部活が忙しくて来られなくなり、2回目の参加は社会人になってからでした。人前に立つのは苦手でしたが、街頭募金に来るようになって、人と接するのが好きになりました。街頭で呼びかけていると、国際的なことに興味を持っている人がまだ少ないと感じる時がありますが、いろんな人に知ってもらいたくて、どうしたら知ってもらえるかをいつも考えながら活動しています。

私は航空機関連の仕事をしているので、自分の作った飛行機にいつかフィリピンの子どもたちが乗ってほしいという思いが、自分が仕事をする上でのエネルギー源になります。また、昨年秋には、スカイプでマニラの路上の子どもたちと交流する活動に参加し、そこで見た笑顔はずっと守りたいという思いが、さらに原動力になっています。

街頭募金の後、自分でもいつも寄付をしていましたが、仕事もあり、ボランティアを続けていけるとは限らないので、関係を保てるようなことを一つやっておきたいと思い、マンスリーパートナーになりました。アイキャンの事務所に来られない時も、フィリピンの子どもの力になれると感じています。これからも続けていきたいです。

